

2020年度「漢方医学教育研究助成」 採択決定者一覧

一般研究助成：4件/7件			
No.	研究題目	施設名・所属（役職）	申請者（代表）
1	「バーチャルリアリティ技術を応用した腹診学習コンテンツの作成と実践」	東海大学医学部専門診療学系漢方医学 准教授	野上 達也
	漢方医学の教育において、腹診の知識・技術を学習することは非常に重要である。これまで学生や研修医などの初学者が腹診を修得する方法として、実際の患者の診察を経験する以外には、腹診シミュレーターを用いるなどの方法がこれまでは行われてきたが、シミュレーターのコストなどいくつかの問題があり十分に普及していないのが実情である。そこで今回我々は、近年発達の著しいバーチャルリアリティ(VR)の技術を用いて、仮想現実空間の中で模擬患者を診察し、特に腹診についてVR用触覚デバイス(GeoMagic TouchやEXOSなど)を応用して学習できるコンテンツを作成し、それを用いた教育を実際に学生や研修医に行い、その教育効果を検証することを計画した。		
2	「クラウド型教育支援サービスによる均一化された漢方教育の拡充」	旭川医科大学 産婦人科 教授	加藤 育民
	医学の進歩に伴い西洋医学の学習範囲が多様化する中で、漢方教育に十分な時間が確保できないのが現状である。教育者である専門医や指導医に限られており、広範な学習者を賄うことは困難である。漢方治療の必要性を認識した医師からも学習機会の確保が望まれているが、漢方教育の機会を得ることは地方在住であるほど困難となる。本研究では、クラウド型教育支援サービスとハンズオン学習を併用することで、医学生の講義・実習の機会不足を補うのみならず、北海道の東洋医学会指定研修施設として医師等の医療スタッフに対しても漢方教育の均一化と機会の拡充をはかる。本研究の成果は、今後の漢方医学教育の向上と標準化につながるものである。		
3	「漢方医学に対する多職種連携教育システムの構築」	大阪医科大学 医学教育センター 講師（副センター長）	駒澤 伸泰
	漢方薬処方において、西洋医薬との併用、食事内容との相互作用、内服時の生活注意点など多視点からの注意が必要である。ゆえに、効果的かつ安全な薬剤医療安全には、医師・薬剤師・看護師を始めとする多職種協働が必須である。漢方医学の多職種協働が期待されているが、必ずしも円滑には進んでいない。漢方医学における多職種協働には、その基盤となる適切な多職種連携教育が必要である。 漢方薬は西洋薬と併用して処方されることも多く、効果と安全性、危機管理に関する網羅的教育をProblem-based learning and discussionやシミュレーターを用いて構築する。低学年から高学年に至る段階的な漢方医学多職種連携教育システム構築と全国的な普及を目指す。		
4	「医学部学生用動画教材の作製とそれを用いた多学部合同実習の設計」	岩手医科大学医学部医学教育学講座 医学教育学分野 特任講師	相澤 純
	本学医学部における漢方医学教育拡充のため、すみやかに実行可能で効果的な方法として、動画を用いた教材を作製する。日本漢方医学教育協議会が作成した教育プログラムをもとに、15分の動画と5分の演習を組み合わせ、90分4回の授業で学修できる教材とする。講師は、本学と関係がある漢方専門医に依頼する。作成した教材は、医学教育学講座の講義内で使用し、評価と改善を行う。 更に、医、歯、薬、看護の各学部から選抜した学生に対し、症例ベースのグループ実習を設計し、試行する。その際、事前学習課題として上記医学部講義用教材を用い、他学部学生への汎用性を確認する。実習実施後に効果と問題点を精査し、正課化にむけた検討を行う。		

グループ研究助成：2件/3件

No.	研究題目	施設名・所属（役職）	申請者（代表）
	研究要旨		
1	「Web投票を活用した舌画像データベースによる標準化舌診自己学習」	山口大学医学部附属病院 漢方診療部 准教授	瀬川 誠
	<p>舌診は漢方的病態を判断する重要な診断手法であるが、初学者にとってその診断技術の習得は容易ではない。その理由は客観化された舌診所見の診断基準が存在せず、舌診の教育手法が標準化されていないためである。そのため、初学者が漢方医学を学ぶ上での負担となっている。</p> <p>本研究は、複数の大学教育機関が連携して属性が客観的評価された舌画像を用いる舌診断学習システム（e-ラーニングシステム）の開発を行い、標準化された舌診教育の実施を目指す研究である。情報通信技術（ICT）を活用することで、時間や場所を選ばずに学習できるため、漢方教育の標準化と普及に貢献ができることが期待される。</p>		
2	「医学生を対象とした漢方医学教育入門編の開発と検証」	神奈川県立産業技術総合研究所 特任研究員	伊藤 亜希
	<p>COVID-19により世界中で対面式授業からOnline授業に移行している。Online授業では視聴のみの受動的な授業に終わらせない工夫が必要とされ、今まで以上に反転授業や協調学習などが効果的といわれている。Online授業における不満として学生はWeb教材の分かりにくさや課題の多さをあげている。特に漢方医学は用語が分かりにくいとされる。そこで我々はこれまでに実施した反転授業の検証から、分かりやすさを重視するためデジタルネイティブ世代といわれる学生目線を視野に入れた双方向性非同期型eラーニングを新規に開発する。その上で、授業で完結できるような双方向性同期型Online授業の検証を実施する。</p>		